

県 外 派 遣 報 告 書 一社)栃木県バスケットボール協会 審判部

大会名	平成30年度 第29回関東高等学校新人バスケットボール大会	開催地	千葉県茂原市 大網白里市
報告者名	赤羽沙耶(ミニ連) 松本祐大(社会人連)	派遣期間	平成31年2月8日(金)~10日(日)
参加者 (所属都県)	本部:渡邊整 平原勇次 関東指名:稲葉威 川満有紀 眞榮喜工 茨城:一色渉 二宮隆二 中山克則 大和田雅人 群馬:星野由貴 小澤朋克 穂川苑子 阿久沢尚夫 埼玉:北島寛臣 山岸大輔 大井陽平 箱石拓也 神奈川:大澤尚樹 渡部伸一 中澤美保子 関野翔太 東京:遠藤大輔 笠島喜与都 島袋竹志 石川丈晴 山梨:佐田幸一 河野仁 古屋勝司 清水倫人 栃木:平出剛 大山賢史 赤羽沙耶 松本祐大 千葉県審判員 順不同・敬称略		

【審判会議内容】

講師 稲葉威 川満友紀 眞榮喜工

ガイドラインについて

①ファウルの成立とは

1. 触れ合いの事実
2. 触れ合いの責任(リーガルガーディングポジション、シリンダー等)
3. 影響(OFのR(リズム)S(スピード)B(バランス)Q(クイックネス)に影響のある触れ合い
→ ファウルとして取り上げる

・目的→クリーンザ・ゲームを実践するため

イリーガルな触れ合いは毅然と笛を吹き続ける・マージナルorイリーガルを見極める

②イリーガルな手・腕・肘の整理(HAND-CHECKING含む)

FOMの確保

FOM=OF・DF共にコート上を自由に動く権利

→不当に有利、不利が生じないようにクリーンでスムーズなゲームを提供

- ・放置するとラフプレーを引き起こす原因
- ・DFだけでなくOFも同様に整理
- ・OFとDFのリアクションではなく、アクションに対して判定

○DFのイリーガルな手・腕・肘(HAND-CHECKING含む)

ボールを持っているプレイヤーに対して

- ・両手を使う
- ・片手でも肘が伸びた状態で触れ続ける
- ・短い時間でも何回も触れる
- ・ポストDFでシリンダーを超えたアームバー
- ・OFを手、腕、肘でロックし止める
- ・ピック&ロール等スクリーンプレーでスクリーナーに対してすり抜けるために手、腕、肘を使う
- ・スクリーナーやユーザーの次の動きを妨げる

○OFのイリーガルな手、腕、肘

- ・ボールを持ったプレイヤーがディフェンスを抜くために手、腕、肘を使って相手をロックし止める
- ・オフボールのオフenseが、ディフェンスの身体に対し腕をまいて抑える
- ・オフボールのオフenseが、手、腕、肘を使ってディフェンスの腕を巻く
- ・オフボールのオフenseが、スペースを作り、ボールをもらうために、シリンダーを越えた手、肘、腕でディフェンスをロックし止める

③スクリーンプレー

・リーガルスクリーン

1. スクリーナーが止まっていること
2. 両足が床についていること
3. シリンダー内で身体の触れ合いが行われること

・イリーガルスクリーン

1. 動いている
2. 止まっている相手の後ろでかける
3. 触れ合いを避けられない距離でかける
4. シリンダーを超えた手、腕、肘、そして足、お尻等、身体の一部を不当に使う

④ブロッキング・チャージング

・リーガルガーディングポジション

1. トルソーを占めている状態
2. シリンダーも含まれる

・ブロッキング

1. FOMを妨げるイリーガルな身体の触れ合い
2. 先にリーガルガーディングポジションを占めていない状態
3. 最後のステップをした後、着地をする場所で触れ合いが起きる
4. Big Impact * OFに責任がない場合はDFファウル

・チャージング

トルソーに突き当たったり押しのけたりする不当な触れ合い
異なった場合→DFに明らかに責任がない場合→OFファウル

⑤プロテクトシューター

OF・・・ジャンプショットのための正当なジャンプ → 着地を確保する権利がある

1. 着地時、DFの足等が触れ合いを起こすこと → DFファウル
2. リーガルなデフェンスに対して、シリンダーをおかす → シューターのファウル
 - ・ショット前はOFファウル
 - ・ショット後はルーズホールファウルとして処置

⑥アンスポーツマンライクファウル

クライテリアの確認

C1 Not Ball Play C2 Hard contact C3 Tactical C4 Last Player C5 Last 2minute

⑦テクニカル・ファウル

- ・Respect for game ゲームを尊重する精神 TFによって与えられるFTは1本が挟み込みゲームの再開
- ・TFが宣せられた場所から * 2019年4月～適用(トップリーグでは2018-19より既に適用)
 1. ベンチおよびプレイヤーが審判・TO・相手チーム・自チーム・観客に対して失礼な態度で接すること
 2. 遅延行為

⑧ディスクオリファイングファウル

・プレーヤーやベンチパーソナルによって行われる、特に悪質でスポーツマンシップに反する行為に対するファウル

(1)UFからDQへのグレードアップ対象 * C1及びC2が対象

1. 通常のプレーから逸脱して暴力行為と判断できるもの
または、大きな怪我につながる危険な接触に関してはDQの対象
2. 首から上、顔面・頭へ肘を使った過度に危険なコンタクト
3. 空中にいるOFプレーヤーに対して過度に危険なコンタクト

(2)著しくゲームを尊重すべきことに反する行為

1. 審判に対して異論を唱えるために身体接触を起こすことやボールを投げつける行為はDQの対象
2. 観客および観客席に対して直接ボールや身につけているものを力強く投げ込む行為はDQの対象
3. 著しくスポーツマンシップの精神から逸脱している行為と判断した行為

⑨ダブルファウル

- ・両チームの2人のプレーヤーがほとんど同時に、互いにPFをした場合であり以下の条件が求められる
- ・両方のファウルが→プレーヤーのファウル
- ・身体の触れ合いを伴うファウル
- ・対戦プレーヤー間で起ること
- ・罰則が等しいこと

◎連続したファウルに対する対応

NF直後にUFのC1、C2に該当する行為があった場合は、両方のファウルを判定し記録する

県外派遣報告書 一社)栃木県バスケットボール協会 審判部

大会名	平成30年度 第29回関東高等学校新人バスケットボール大会	開催地	千葉県茂原市 大網白里市
報告者名	赤羽沙耶(ミニ連) 松本祐大(社会人連)	派遣期間	平成31年2月8日(金)～10日(日)
参加者 (所属都県)	<p>本部:渡邊整 平原勇次 関東指名:稲葉威 川満有紀 眞榮喜工</p> <p>茨城:一色渉 二宮隆二 中山克則 大和田雅人 群馬:星野由貴 小澤朋克 穂川苑子 阿久沢尚夫</p> <p>埼玉:北島寛臣 山岸大輔 大井陽平 箱石拓也 神奈川:大澤尚樹 渡部伸一 中澤美保子 関野翔太</p> <p>東京:遠藤大輔 笠島喜与都 島袋竹志 石川丈晴 山梨:佐田幸一 河野仁 古屋勝司 清水倫人</p> <p>栃木:平出剛 大山賢史 赤羽沙耶 松本祐大 千葉県審判員 順不同・敬称略</p>		
<p>グループミーティング 準決勝終了後に各コート毎にグループミーティングを行った。</p> <p>【目的】</p> <p>担当審判員の判定の根拠や考え方、プレイの見方など、参加審判員と共通理解を図り、それぞれが次の審判活動に活かせることを目指す。</p> <p>単に間違いの指摘や非難、否定をするという場ではなく、参加審判員が、自分の考えを発言することにより、積極性と責任感をさらに身につけることを目指す。</p> <p>【内容と進め方】(以下に限らない)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイドラインの各項目に沿って、参加審判員たちの考えや意見を発言してもらおう。 (良かったケースや、共有してもらいたい項目、外してしまっていた項目を抽出しておこなう) 2 発言されたケースについて、同様な意見を持つ人、違った見方をした人がいるかどうかを確認する。 3 担当審判員に見解や根拠を述べてもらう。 4 審判主任の見解を述べてもらう。 5 ゲームを通してガイドラインに沿った判定や運営が行われていたのかを中心に感想等をまとめる。 <p>【注意事項】</p> <p>コートの外から見た印象と現場での判定や見え方の違い、見間違いであったかもしれないことへの確認、見解、判定の根拠など共通理解などが得られれば良い。(解決・すり合わせができるものできないものがある。)</p> <p>審判主任と担当審判員双方ともに、出されたケースについて印象が薄く記憶に残っていないケースもあり得ることは仕方ない。</p>			

○対戦カード :女子準決勝 千葉英和(千葉) 58 - 61 アレセイア(神奈川)

○コート担当 :阿久沢尚夫(群馬) 箱石拓也(埼玉) 清水倫人(山梨)
佐藤麻衣子(千葉) 山田綾音(千葉) 松本祐大(栃木)

主任 :二宮隆二(茨城) 赤羽沙耶(栃木)

○審判員 :CC星野由貴(群馬) U1遠藤大輔(東京) U2佐田幸一(山梨)

◇ ミーティングの内容

リバウンドについて

- ・クルーの共通認識⇒ボールを失ったらコール
- ・結果、ゲームの終盤でリバウンド時のボールを失う触れ合いが増え、ファウルコール

↓

- ・ゲームの入りから細かくファウルコールしていたら終盤のファウルが増えることがなかったかもしれない。

ベンチ管理について…

- ・ベンチとコミュニケーションは取れていた。

↓

- ・大きくアピール(指差し)があった場面で何か対応すべきであった。
- ・相手ベンチがアピールがないだけに、少なくともワーニングを入れてゲームコントロールをするべきであった。

県外派遣 審判ミーティング記録表

割当日:平成31年 2月 9日(土)

審判員名	赤羽沙耶(U2)	相手審判	CC:渡邊整(本部) U1:久保あしみ(千葉)
カード	女子一回戦 東京成徳(東京) 91 - 81 明秀日立(茨城)		
◇ ミーティングの内容			
<ul style="list-style-type: none"> ・クルーチーフメンタリティ。クロック管理や交代など、細かいところまで気を配る。 ・トレイル、センターの時にボールウォッチャーになっている時がある。 ・テンポセッティング。ゲームの入り方。自分のプライマリーのものは確実にコール。 <p style="text-align: right;">主任:川満有紀(指名)</p>			

審判員名	赤羽沙耶(U2)	相手審判	CC:眞榮喜工(指名) U1:中澤美保子(神奈川)
カード	女子二回戦 明星学園(東京) 68 - 74 千葉英和(千葉)		
◇ ミーティングの内容			
<ul style="list-style-type: none"> ・クルーで無駄なものをコールせずにゲームを進められていただけに、ターンオーバーの際の3人の間でのファウルがノーコールになってしまったのが目立っていた。 <p style="text-align: right;">主任:佐藤麻衣子(千葉)</p>			

【感想・県内審判員へ伝達したいこと】			
<p>今大会は一泊審判員として参加し初日に二本の割当をいただきました。担当した二試合とも終始緊張感のあるゲームで、まずこの割当を頂けたことに感謝申し上げます。また日頃トップリーグを担当されている方々と吹くことができ、多くのことを学ぶことができました。</p> <p>講義ではクルーワーク「クルーを信頼すること」の大切さ、そして各々が約束事を守ることでメカニクスが成り立つこと改めて確認することができ、実践に活かすことができました。ゲームでは最近の課題である「吹き急がないこと」をとくに意識して取り組みました。クルーワーク、レフェリーディフェンスを意識し臨みましたが、逆に自分のプライマリーのものを助けてもらう場面が何度かありました。またクルーチーフメンタリティの低さも今後の課題です。この3日間で学んだことをこれからの活動に活かし、レベルアップできるよう精進して参ります。</p> <p>最後に今回の派遣に際しましてご尽力いただきました、渡邊整ブロック長、渡邊諭審判長をはじめ県内審判員の皆様、お世話になりました千葉県審判員の皆様、大会関係者各位に感謝申し上げます。</p>			

県外派遣 審判ミーティング記録表

割当日:平成31年 2月 9日(土)

審判員名	松本祐大(U2)	相手審判	CC:中島弘幸(千葉県) U1:関野翔太(神奈川県)
カード	男子一回戦 埼玉栄(埼玉県) - 前橋育英(群馬県)		
◇ ミーティングの内容			
<ul style="list-style-type: none"> ・ファウルをコールしたものでPOCを確認する必要があるケースがあった (バーディカリティ) ・3or2で良いヘルプをしていた ・センター時にリードがスイッチサイドの途中でまだチェックインをしていないときにコールする事ができた ・速攻の時にニュートレイルで追いかけていてリードが鳴らせなかった時にコールした方が良かった <p style="text-align: right;">主任:平原勇次(東京)</p>			

審判員名	松本祐大(U2)	相手審判	CC:平出剛(栃木県) U1:島袋竹志(東京都)
カード	男子二回戦 市立船橋(千葉県) - 正智深谷(埼玉県)		
◇ ミーティングの内容			
<ul style="list-style-type: none"> ・無駄なものを吹かずにスムーズにゲームが流れていたのがよかった ・トレイルで”3or2の確認をしようとするがあまりシューターチェックに来るデフェンスに対してOFがムービングスクリーンをして倒れたケースを判定出来なかった→DFは負傷 ・自分のプライマリーを守ろうとしていたのはよかった ・リードでノッキングしてしまう場面がみられた <p style="text-align: right;">主任:二宮隆二(茨城)</p>			

【感想・県内審判員へ伝えたいこと】

今大会では1泊審判員として参加をさせていただき、初日に男子1回戦、2回戦の計2試合を担当させていただきました。1試合目、2試合目共に序盤から緊迫したゲームとなり、多くの経験をさせていただきました。今回参加させていただくにあたり、今まで取り組んできた判定面とメカニクスを強く意識して臨みました。

判定面では目の前1つ1つを大切に良く見極めコール・ノーコールの判定をし続けることができました。その中でPOCが違うもの、コール出来なかったものがあったので、その原因を追求し以後改善に努めたいと思います。

メカニクスについても現段階で取り組んできたことは出すことができたとは思いますが、プライマリーの理解や以前から課題でもあるリードでのノッキングをしてしまった場面もあったので今後も更に勉強していきたいです。

審判会議ではガイドライン・メカの重要性を再認識する事ができました。また、いくらガイドラインやメカニクスで言葉や動き方を知っていても、コート上で発揮できなければ意味がないと感じました。そのためには審判会議でお話ができた、「経験」と「取り組み」が重要だと改めて思いました。ガイドライン、ルールブックを熟読・理解することはもちろんのこと、実際にコート上で経験をしたり、生の試合や映像を見て常に経験し学び続けることが重要だと思いました。

今大会への参加に際しまして渡邊整ブロック長、講師の先生方、派遣審判員の皆様方、地元千葉県の皆様方には多大なるご奉仕を頂き心より御礼申し上げます。また、派遣に際しましてご尽力いただきました渡邊諭県審判長、並びに県内審判員の皆様方にも心より御礼申し上げます。今回経験させていただいたことを糧に、地道に日々精進して参ります。今後ともよろしく願い申し上げます。